

乾杯!

グローバルな現代社会では、自分と違った文化的背景をもつ人々とのおつきあいの機会が増える。私もほんのひと月の間だが、久しぶりに中国の北京へ行っていた。異文化が会うとき、意外に重要なのが、「乾杯」だ。ちなみに「乾杯」は中国語だと「干杯」という。

ちよつと面白いのが、真ん中に料理を置いて回してとりわける方式の、あの中華料理用の丸テーブルでの乾杯。「かんぺーい」というときに、料理を載せる、真ん中のくるくる回るところ（ガラスのことが多い）に、みんな自分のグラスを当てるのだ。遠くの人とグラスを合わせるためによつと立ち上がったたりしなくてもよい、乾杯のカチンというのが真ん中の回るところを介して全員に伝わりあうという寸法である。いわば振動同時伝達方式の乾杯だ。

食事内での位置づけも違う。日本では乾杯はだいたい最初に位置づけられ、儀式的にそろって飲む。しかし、いったん乾杯するとあとは比較的自由にめいめい好き勝手に飲んでいく。私などは料理を堪能しつつちびりちびり飲むのが好きだ。一方、中国では何かの度に、同時にグラスを干すような「食事中で動きを合わせた乾杯」をよくする。本当に杯を空ける文字通りの「乾杯」となることも多い。漢詩で出てくる「君に勧む、更に尽くせ一杯の酒」などというのは、今の日本風にめいめいちびりちびり飲んで「さあさあ、もう一杯」という感じなのか、今の中国風に「動きを合わせた乾杯」で同時にぐいっと飲んでしまふ「一杯の酒」なのか、どっちの飲み方なのだろう。

儀礼的な乾杯の姿勢も違う。日本はグラスを高く上げて頭を少し下げたお辞儀をするようにすることが多い。一

方、中国では、グラスを相手より下げようとする。日本風と中国風と一緒になると杯が合わないわけで、少しとんちんかんになる。しかし、考えてみれば、それぞれ発想が違っただけで相手への敬意は同じである。日本風はわが頭を下げ、相手との接点となるグラスは高く掲げる。中国風は「我」がグラスの高さに象徴され、相手より下にグラスを位置づけることで謙遜を表す。

かくして乾杯に乾杯を重ねつつ、いろいろなものを食したひと月であった。アヒル、ガチョウ、ソウギョ、ザリガニ、カエル、ワニ、ロバ、羊、馬……。さすがは中華料理。ビールもあっさり味でどんどん飲んでしまふ。気づいた時には体型が微妙に変わっていたのであった。いかに、体が心配だ。——お、では、健康を祈って、さあ、かんぺーい!?

早稲田大学教授

森山卓郎